

11/18

12:00

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第24号

2010年11月20日発行

*** 目次 ***

- 1. 「地産地消」を考える
- 2. 事業仕分け傍聴記
- 3. 援農ボランティア部会の活動について
- 4. 学校給食支援部会の活動について
- 5. 販路拡大・食育交流部会の活動について
- 6. その他の活動
- 7. 新座市役所の視察について
- 8. 会員寄稿
- 9. 今後の行事予定
- 10. 会長インタビュー
- 11. 編集後記



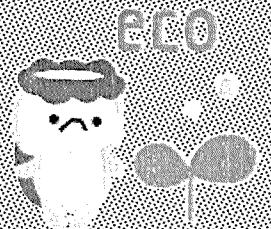
発 行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 秋保 武

住 所：270-1155 我孫子市我孫子新田22-4

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

URL <http://www15.plala.or.jp/chisan/>



1. 「地産地消」を考える

副会長(市農政課長) 大畠 照幸

「地産地消」とは、文字通り「地元で生産されたものを、地元で消費する」ことです。また、これにとどまらず、「澄んだ空気」「清らかな水」「豊かな土」を地域に循環させる取り組みもあります。こうした意味で「地産地消」という言葉には、地元への強く、熱い思いが感じられます。

「地産地消」を進めるためには、私たち一人ひとりの意識が大切です。生産者あるいは消費者としてお互いを理解し、生産者は安全なものを消費者に提供すること、消費者は自分たちの消費行動が、地域の農業を支えることを強く意識することが大切です。また、消費者が農業への理解を深め、地元の農産物を積極的に消費すれば、より安全な農産物の生産や供給の原動力となり、安心な食生活の持続につながります。さらに、そうした意識と行動が、地元の農業を後押しし、農業のもつ多面的機能により、地域の自然環境や農村景観などの保全につながっていくのです。この協議会では、こうした意識の輪を広げていくため、様々な活動を行ってきました。

今後とも、会員の皆さんをはじめ、市民(消費者)・生産者やJAなどの関係機関と連携し、「地産地消」の取り組みを着実に進めていきたいと思います。

今日も、地元の生産者が丹精を込めて作った農産物が、あびこ農産物直売所などに並んでいます。匂の野菜の甘さや、おいしさを実感してください。そして、改めて、食と農、「地産地消」の意味を考えましょう。我孫子の「地産地消」という風を、さらに大きな風にしていくために。



2. 事業仕分け傍聴記

総務部会 望月 公雄

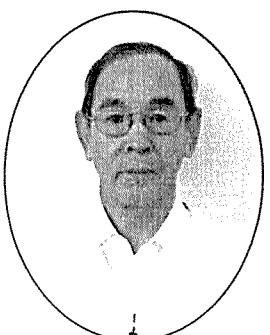
我孫子市に於きましても国政同様に、事業仕分けが8月21日、28日、29日の3日間行われました。我孫子市が関与し、また負担金・補助金を支出する370事業のうち66事業が仕分けの対象に取り上げられました。この対象事業の中に「地産地消協議会の充実」が入ったことから、どのようなやり取りをするのか会長代行で傍聴いたしました。その内容を簡単に述べることといたします。

事業仕分けは3班に分かれて、各班4名の委員と司会者、市の説明職員2名で実施されました。各事業の概要を市担当職員が説明し、委員と市職員との質疑を経て、委員が各事業を廃止、民営化、国または県、市(要改善)、市(現行どおり)の5通り評価します。

会員皆様のご高承のとおり、当協議会は市から272万円の負担金をいただいております。農政課管理職が第7回定期総会資料等に基づき(後日聞取り)、事業目的、活動状況、予算執行状況について説明いたし、各委員から問題点等の質問や指摘がありました。

具体的には、広報活動を強化し、「一般・農家会員数を増やす」、「販路確保の推進」、「直売所の収益改善」、「事務所規模の縮小」が提起され、結果は「要改善」の意見でした。

私見ですが、直売所経営に当協議会が直接タッチしているとの誤認も一部見受けられましたが、女性役員の登用や会員増加など協議会役員会で常々討論されていることが提起され、大いに参考になりました。



3. 援農ボランティア部会の活動について

援農ボランティア部会長 宮本 豊

9月4日の開講式を皮切りに第7期援農ボランティア養成講座が始まりました。作業実習は、異例の猛暑の中での作業、密林のような雑草の中での作業、雨による受入農家の突然の変更等、ハプニングがありましたが、応募された15人の皆さん全員が無事4回以上の作業実習を修了。又、今年3月から始まった「援農体験制度」に応募した10人の皆さんも作業実習に合流、10月23日の閉講式を迎えることが出来ました。閉講式当日は都合で欠席された3名を除く22人に秋保会長から修了証書が授与されました。

閉講式では皆さんが、援農ボランティアに応募したきっかけ、作業実習の感想、我孫子市の農政等についての意見等を発表。皆さんの発言は、体力的に多少きつかったものの、有意義な作業実習であったとの内容が大半でした。

閉講式後に開催された懇親会では米澤さんの巧みなリードもあり、会員相互の懇親が深まりました。

尚、受講生は25人全員が当協議会に加入し、11月から援農ボランティアとしてボランティア活動に参加します。第7期生の加入により、10月末現在の援農ボランティアの会員数は77人となります。



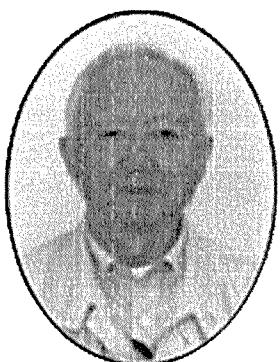
4. 学校給食支援部会の活動について

学校給食支援部会 山田 豊

学校給食に地元あびこ産の安全・新鮮な野菜を取り入れることが数年前に決定し、学校へ直接お届けしています。現在、市内の小・中学校19校のうち、11校で実施しています。

実施方法は、農政課の仲介のもと、あびこ農産物直売所が出荷組合傘下の農家から、その時期の農産物を入れ、私達支援部会が、納品の前日に商品の検品・検量・小分けを行った上で、給食当日の朝、各学校へ搬送しています。配達は、11校を4ルートに分け、2組（1組2人）を編成し、各組、月2回の搬送です。

但し、現状ではいろいろな問題もあります。①各校の実施日が月1回であること ②直売所の採算面 農政課の負担増と制約があること ③既存の業者の権益を圧迫する恐れがあること ④搬送実績が全19校で消費される量の2~3%しかないこと。等々で拡充がむずかしいのです。我孫子市の方針で、今年度中に全19校での実施を決めております。現行11校の残り8校については、教育委員会主導のもと、各校が農家と直接実施をされるようです。尚これを機に皆様のより一層のご理解、ご協力をお願い致します。



5. 販路拡大・食育交流部会の活動について

販路拡大・食育交流部会副部会長 米澤 外喜夫

販路拡大・食育交流部会は、「地産地消」の部会の中でも、特に「地消」を主なテーマとして活動しています。地元で採れた農産物を地元で消費する。これはとても大切な事ですが案外忘れられていることもあります。当部会では、どの様にしたら我孫子の農産物を知ってもらうか、と言うことに対する目的を絞り、検討し、結論として、農家さんの畠での行事を企画しました。

7月初旬に、高野山地区の、当部会長でもある鈴木順一さん~~家の~~の畠をお借りし、【採って食べよう枝豆、トウモロコシ】を企画。皆で畠に入り、枝豆、トウモロコシを収穫し、庭先で大鍋にお湯を沸かし茹で上げた、枝豆、トウモロコシを、まさに、太陽の下、汗を拭き吹き食べる。その美味しいこと美味しいこと！！

皆さん日々に感動の嵐でした。取立ての野菜の味は又格別です。帰りには、庭先に並んだ野菜の数々を、我先に買い求める。そして、農家さんと、市民との交流の輪が自然と出来ました。



又7月下旬には、根戸地区の鈴木誠さん宅の畠で、【育てて食べようソバ教室】を3回シリーズで企画しました。7月下旬に種まき、10月に収穫、11月に料理教室を実施する方向で進行中です。

今年は特別暑い夏の中、親子10組の23名の参加者が、見よう見真似の種まき、そんな中自然と会話が弾み、いつしか暑くて単調な作業も、爽快な汗と共に楽しいひと時に感じられるから不思議です。そんな自身の変化に、ふと気が付き、笑顔に変わっていく、とても爽やかなひとときでした。

10月下旬のそばの収穫は、台風の影響で繰り上げ収穫するしかなく、とても残念でした。雨に打たれ、又すずめの餌食にもさらされ、自然の驚異の前に為すすべもなく、予定量を大幅下回る収穫になりました。

11月上旬に予定していた、五本松地区での「里芋堀と芋煮鍋」も、やはり夏の猛暑と雨不足により中止となりました。しかし、来年に向けてとても勉強になりました。この様な農家さんとの交流イベントをこれからも企画していきたいと思います。

【その他の活動】

恒例の「米粉を使った料理教室」を10月12日アビスタにて開催。受付から2時間余で20人の定員をオーバーしてしまい、沢山の方にご迷惑おかけしました。来年度の課題として改善策を検討致します。

尚、レシピマニュアル冊子は、直売所に置いてありますので是非ご利用下さい。

当日は山中先生他5名のスタッフの方のご指導で、皆さん懸命苦闘の末、米粉によるパンやピザの生地作りを行い、強力レンジのお蔭もあって、美味しい美味しいパンやピザが出来上がり、とても楽しい一日となりました。



【平成22年度販路拡大・食育交流部会 上半期行事（上記の活動以外）】

①食と農【地産地消】を学ぶ イベントに参加、昼食の食材及び朝採新鮮野菜の即売会

7月22日(木) 我孫子グリーンタウンにて

②つくし野の夏祭り イベント参加【新鮮朝採野菜の即売会】

7月24日(土) つくし野軽井沢公園にて

③販路拡大・食育交流部会現地視察会 11月5日(金) 実行委員9名参加

牛久ポケットーム牛久どきどき（JA全農茨城直営）及び、野田公設民営ゆめあぐり野田の2ヶ所を視察。

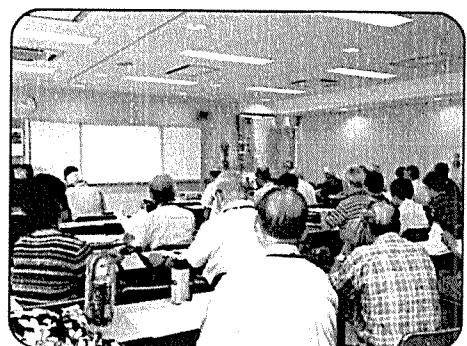
6. その他の活動

(1) 我孫子市「長寿大学」にて講演

広報部会 平野 善史

9月10日(金)、我孫子市が65才以上の方を対象に主催する「長寿大学」が湖北公民館で開催され、秋保会長が「農あるまちづくり」という演題で当協議会の活動を紹介しました。

当日は約50人の方が参加され活発な質問がありました。「地産地消」の観点から、「地産」は援農ボランティアの活躍等もあり確実に対策が為されつつあるが、「地消」の方はもっと注力が必要ではないかとの貴重なご意見を頂戴しました。



(2) 我孫子市第2回農業講座に参加して

広報部会 川田 悅代

①日時：7月29日(水) ②会場：我孫子市議会棟第一委員会室 ③テーマ：土、堆肥について

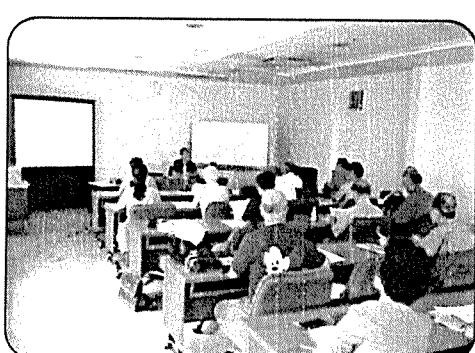
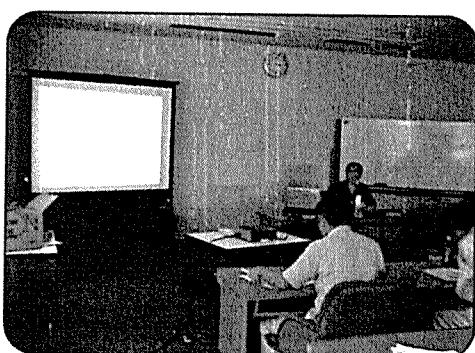
④講師名：東葛飾農林振興センター改良普及課 上席普及指導員 藤澤由美子氏、⑤受講者：31名

⑥感想

前半は土の性質や肥培管理、後半は堆肥に関する講義。

「土壤の酸性化対策で石灰を撒き過ぎると、アルカリ過多になり逆効果（市販の微生物パックも石灰入りなので要注意）」「ハウスでは余分な肥料が雨で流出しない為、土中の塩類が高温や蒸発で土表面に溜まり、養分吸収が悪くなる」「連作障害を防ぐ方法」等、具体例を用いた分かり易い解説でした。家畜糞堆肥を自分の目（鼻？）で比較した事も大変印象的でした。

今後、援農や庭仕事の際に教わった事を思い出しながら作業して行きたいと思います。



“新鮮”“安心”“おいしい”地元の野菜をどうぞ!!

(3)我孫子市第3回農業講座に参加して

平成22年入会 村山 勉

①日時：10月27日(水) ②会場：千葉県農業大学校機械化研修班（千葉市緑区）

③テーマ：農業機械体験研修、④受講者：8名

⑥感想

今回、農業講座・機械化研修に参加させて頂きました。前々から農機具の使い方を知りたいと思い、講座を受けてから家庭菜園で使う耕運機を購入しようと思っておりました。当日7時30分、冬のような寒さの中、市役所前に集合し、総勢11人、マイクロバスで千葉市緑区の千葉県立農業大学校、機械化研修班へ行きました。開校式に始まり、農作業事故、事故の原因等安全確保についての座学があり、午前中にトラクターの運転、午後に耕運機、草刈機の操作実現を指導頂きました。久しぶりに緊張感を味わいました。農機具の操作は初めてで、車と違いブレーキを踏んでも止まらない等、車の運転より難しく感じました。最後に農業機械体験研修の修了証書授与で、楽しく有意義な講座を終了しました。関係者の方々に感謝しております。ありがとうございました。

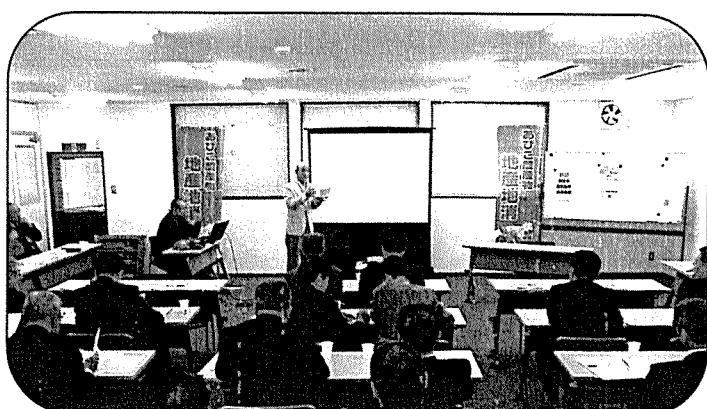


7. 新座市役所の視察について

埼玉県新座市から20名が視察で来訪

事務局 伊吹 宏

10月27日(水)、埼玉県新座市より、当会の「援農ボランティア養成講座取組み」を研修のため20名が視察で来訪されました。新座市でも援農ボランティア制度の導入を検討中とのこと。講座内容は下記の通り。約2時間質疑も活発で、秋保会長、宮本部会長はじめ関係者が本音で丁寧に応答した。また、中野副会長からも受入農家としての立場からアドバイスをした。視察団も所期の目的を達成されたとのことで、視察団を代表して新座市農業振興協議会の渡邊会長より謝辞を頂いた。



来訪者：新座市農業振興協議会：渡邊会長、農業委員会委員、あさか野農協理事、

各農業団体長、市民環境部副部長・課長他

対応者：[我孫子市]環境経済部長他、

[当会]秋保会長、中野副会長、

宮本援農ボランティア部会長他

講座内容 (AM10:00 ~PM12:00)

：①歓迎挨拶 ②協議会の概要 ③援農ボランティア

制度説明 ④NHK 録画放映 ⑤質疑応答



8. 会員寄稿

(1) 「貴方もぜひ我孫子にお住まいになりませんか」と言える街に

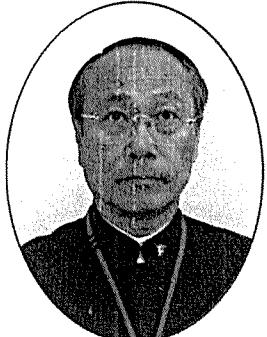
平成21年入会 岩井 康

住まいを聞かれて「我孫子です」と答えると、必ずといっていいほど「手賀沼のあるところですね。いい所にお住まいですネ」と言われます。確かに手賀沼をはじめ、私が気に入っているスポットは幾つもあります。そして、我孫子市の将来都市像を『手賀沼のほとり 心輝くまち』～人・鳥・文化のハーモニー～を、共通の目標としています。また、我孫子市の基本構想は、農業の生産性を高め、安定した農業が営めるように農業支援を進めます。としています。

私は、昨年から援農ボランティア(6期生)として1年間農家の方々、援農ボランティアの先輩方から、いろいろ農業について教えていただきました。猛暑での草取りやハウス内の作業、身体の芯まで凍える厳冬期など、農業の厳しさの一部を知りました。

さらに、天候に左右されて収入が不安定なことと高齢化などから、農家の経営は大変厳しい状況

にあるとのことです。短い体験から、基本構想のいう「安定した農業が営める農業支援」は、構想から具体的に地に着いた施策にしなければと痛切に感じています。そのことは『手賀沼のほとり 心輝くまち』を実現することです。「いい所にお住まいですネ」と言われたら、見た目だけでなく、内実も含めて胸を張って「はい、いい所ですよ、貴方もぜひ我孫子にお住まいになりませんか」と言いたいです。



(2) コツツウォルズを旅して

平成22年入会 遠藤 真理子

援農ボランティアを始めたばかりの日本の5月下旬は花が咲き、緑が眩しかった。そのころツアーに参加して、憧れの英国に行った。ヒースロー空港に到着し、案内役のピンセント夫妻の車で、私たち8人はコツツウォルズの中心街チャルトナムを目指した。車窓からの景色に感嘆し通しだった。黄一色の畠(この時鈴木誠さん宅での「のらぼう」の片づけを思い出していた)白い花をつけた木々。これらは、緑の畠や木々に映える景色だった。私達は、3つのグループに分かれホームスティした。ホストマザーの60代のエフィーの庭は広く、春の花でいっぱいだった。白やピンクのライラックの花は今を盛りに咲いていたし、芝生の中から可愛いディジーが顔を覗かせていた。困ったときは旅仲間にお願いしたが、カタコト英語とおばさん度胸でエフィーとの会話は成り立った。でも、風呂場の床の絨毯には参った。水がはねないように気を遣わなければならないし、その上水量は少なかった滞在中、はちみつ色のレンガで有名なバイブリーの村を訪ねたり、スconeを焼いたり、ポロ見学をしたりしてあっという間に1週間が過ぎた。帰る頃には、ライラックに変わり、ピンクのバラがエフィーの庭に咲いた。彼女は一枝折ってくれたが、持ち帰れないで、写真に納め帰路についた。

今は自宅の小さい庭で好きな花を植え季節を楽しんでいる。青空の下のけいとやコスモスの咲く我孫子の農道も好きな景色である。



9. 今後の行事予定

今後の行事予定は以下の通りです。皆様奮ってご参加ください。なお、詳細についてはホームページをご覧になるか、協議会事務局までお問い合わせください。

| | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 11月27日(土)、28日(日) | 新そばまつり | 我孫子市農産物直売所 |
| (2011年) | | |
| 1月15日(土) | ちびっ子餅つき大会2011 | 我孫子市農産物直売所 |
| 2月5日(土)、6日(日) | 我孫子消費者生活展に参加 | 我孫子市民プラザ |
| | テーマ：エコ農産物って何がちがうの | |

10. 会長インタビュー

秋保会長に最近の状況についてインタビューをしました。

広報部会 田中 志保

Q1. 最近、緑色の「のぼり旗」を方々で見かけます。目的と設置場所は？

(会長)「地産地消」の啓発PRが主たる目的です。設置場所は、農産物直売所、農家庭先の直売所、地元産コーナーのあるスーパー、幹線道路など数十箇所に、約100本設置しました。

Q2. リーフレットの発行やホームページの更新など活発ですが・・・。

(会長)当協議会活動が一目でわかる資料が求められておりました。この資料は、総務部会で原案を作成し、デザイン等は事務局が脚色したいわゆる手作りのものです。ホームページはトップページを斬新的なデザインに変えて内容も更新しました。HP作成は広報部員のほか外部ボランティアの協力も得ました。

Q3. 現在の会員状況と人材の活用についての考え方について？

(会長)10月末で会員数は171名です。(下表参照)。会員は人材の宝庫です。それぞれの分野で活躍してきた方ばかりの専門家集団です。当協議会の活動にご協力頂ける方、是非応募して下さい。お待ちしております。

また、会員の募集は隨時行っておりますので、知人などお誘い頂ければ幸いです。

会員数の推移(平成22年10月末現在)

(単位：名)

| | H22年3月末 | H22年10月末 | 増減 | 入会者 | 退会者 |
|----|---------|----------|----|-----|-----|
| 個人 | 113 | 132 | 19 | 29 | 10 |
| 農家 | 30 | 34 | 4 | 6 | 2 |
| 賛助 | 7 | 5 | -2 | 0 | 2 |
| 合計 | 150 | 171 | 21 | 35 | 14 |



11. 編集後記

- (1) 今回は8月末に我孫子市の事業仕分けが3日間に亘り開催され、当協議会も対象となりヒアリングがありましたので、事業仕分けに関する記事を大畠副会長・望月総務委員にお願い致しました。
- (2) また、援農ボランティア部会をはじめとする各部会の活発な活動をもっと知って頂きたいと思い、各部会の責任者の方に活動内容についての報告と、農業講座受講生には受講後の感想をお願い致しました。
- (3) 対外的な広報活動としては長寿大学での講演や、新座市の視察対応等、昨年のNHK生活ほっとモーニングにおける援農ボランティア活動の放映以降の、他地区の当協議会活動への問合せ等に対してタイムリーに対応している状況を報告致しました。

お忙しいなか、寄稿頂きました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(広報部会 平野 善史)